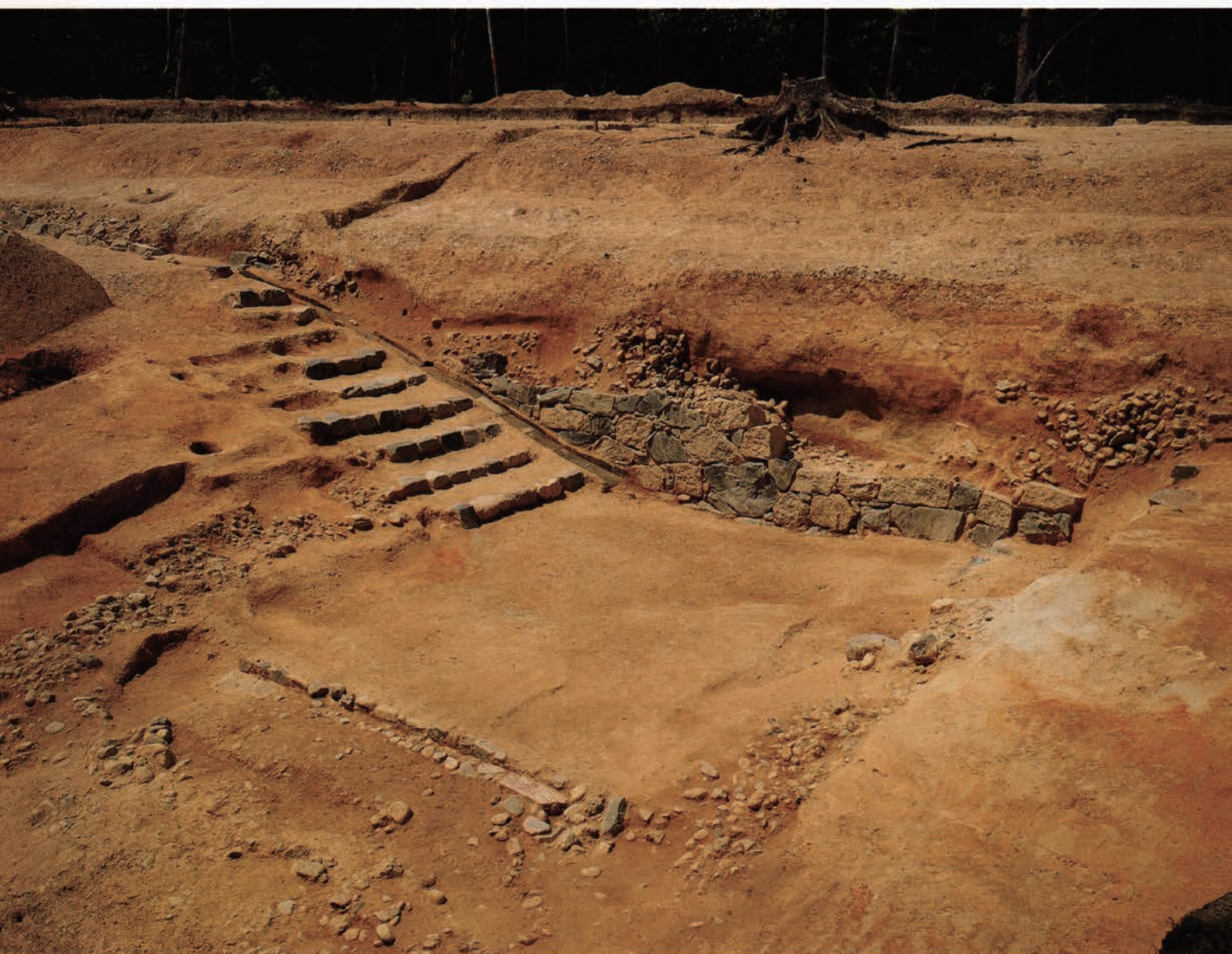


平成 8 年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

第 15 回

小さな展覧会



1997.8.16~8.30

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

ご あ い さ つ

京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、1996年度には34遺跡の発掘調査を行いました。今回の展覧会では、注目された遺跡としてその内12件を取り上げ、京都府内の各機関の調査成果13件と合わせて展示しております。

この展覧会の目的は、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果を出土遺物の数々や写真パネルを通して、広く一般の方々に紹介し、合わせて埋蔵文化財への理解を深めていただくことにあります。そのためにも、皆様によりわかりやすく親しみやすい展示を心がけていくつもりであります。

今回の展示にご協力いただいた各関係機関をはじめ、後援をいただいた京都府教育委員会、ならびに協賛をいただいた向日市文化資料館に感謝いたします。

1997年 8 月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
理事長 樋口 隆康

凡 例

- 1 本図録は、1997年 8 月16日から 8 月30日まで実施する「第15回小さな展覧会」の展示図録である。
- 2 展示品は、京都府埋蔵文化財調査研究センター及び府内各機関が主として1996年度に発掘調査を行った遺跡と遺物を対象とした。
- 3 収録した写真は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター・京都府立山城郷土資料館が撮影したもののほか、次の機関から提供を受けた(順不同、敬称略)。舞鶴市教育委員会、福知山市教育委員会、園部町教育委員会、亀岡市教育委員会、仏教大学、(財)京都市埋蔵文化財研究所、(財)向日市埋蔵文化財センター、長岡京市教育委員会、宇治市教育委員会、京都府教育委員会。
- 4 資料調査、図録作成、展示品借用に当たっては、上記の写真提供者のほか、各関係機関、個人の方々からご指導、ご協力を得た。
- 5 本図録は京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第1課と山城郷土資料館が分担し、まとめた。

表紙カット：田辺城跡の石垣と石段



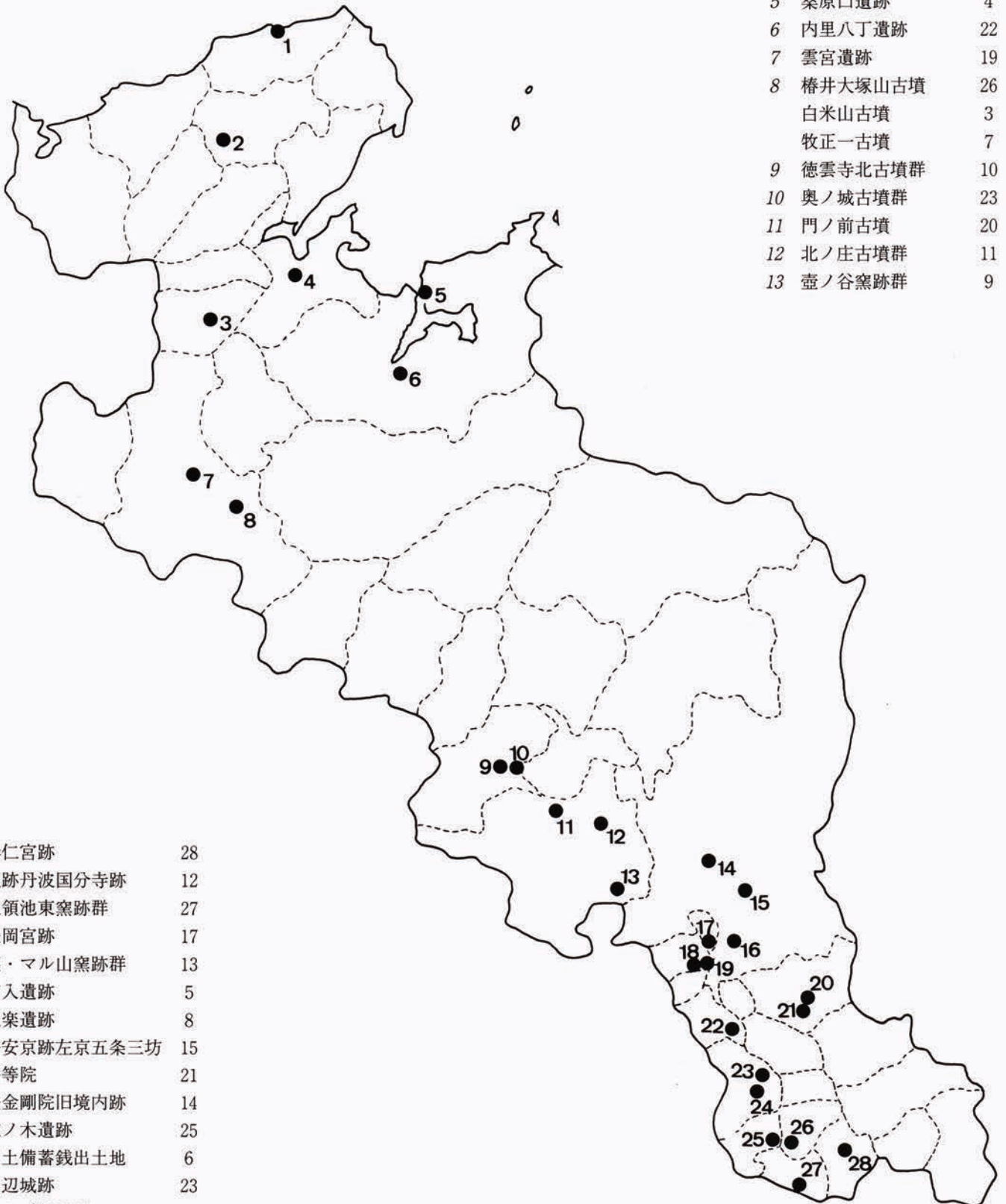
桑原口遺跡の銅鏃とガラス勾玉



シミズ谷城跡の銅製のおもり

目次・展示遺跡位置図

頁	遺跡名	地図番号
1	十三遺跡	18
2	平遺跡	1
4	東土川遺跡	16
	稲葉遺跡	24
5	桑原口遺跡	4
6	内里八丁遺跡	22
7	雲宮遺跡	19
8	椿井大塚山古墳	26
	白米山古墳	3
	牧正一古墳	7
9	徳雲寺北古墳群	10
10	奥ノ城古墳群	23
11	門ノ前古墳	20
12	北ノ庄古墳群	11
13	壺ノ谷窯跡群	9

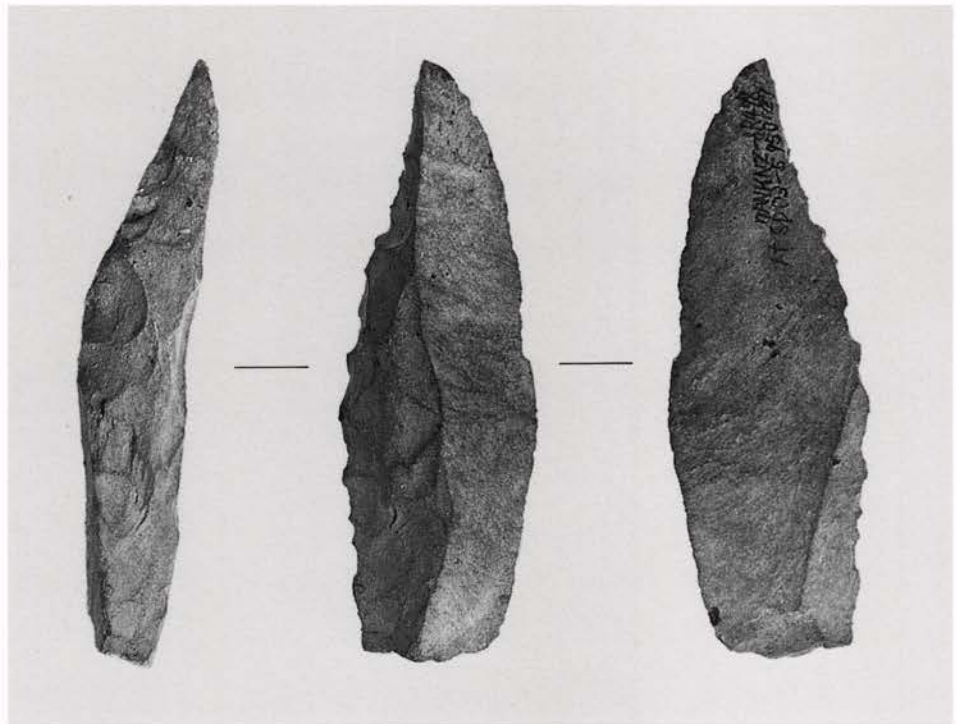


14	恭仁宮跡	28
15	史跡丹波国分寺跡	12
16	五領池東窯跡群	27
17	長岡宮跡	17
18	篠・マル山窯跡群	13
19	浦入遺跡	5
20	上楽遺跡	8
21	平安京跡左京五条三坊	15
22	平等院	21
23	法金剛院旧境内跡	14
24	棕ノ木遺跡	25
25	引土備蓄銭出土地	6
26	田辺城跡	23
27	シミズ谷城跡	2
28	展示品リスト	

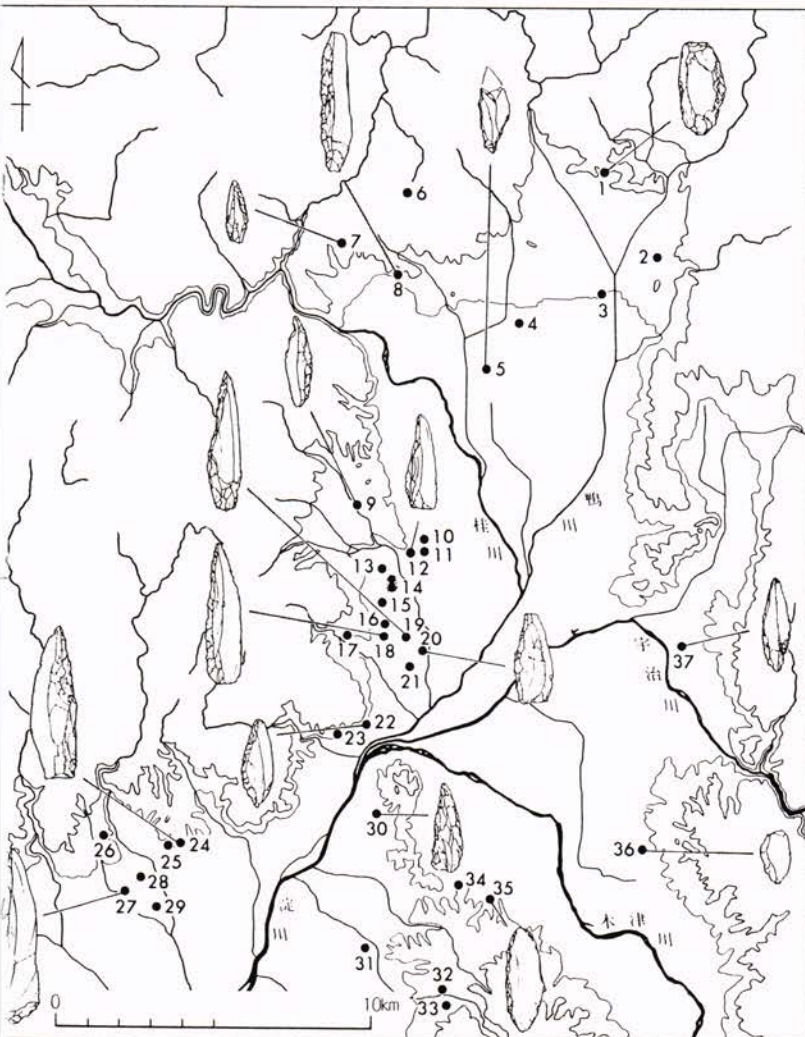
じゅうそう
十三遺跡

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)
長岡京跡右京第498次

約2万年前
長岡京市てんじん天神



ナイフ形石器 ▶
(原寸の1.5倍)



京都府最古級の遺物

京都盆地に人類が住み始めたのは、およそ3万年前とされています。特に、洛西ニュータウンから高槻市にかけての丘陵では、今までに旧石器時代(土器が発明される以前)の石器が数多く見つかっています。ここに展示した石器も、出土したのは古墳時代の溝の中からですが、2万年前に旧石器人が使っていた石器です。国府型ナイフと呼ばれ、近畿地方を中心に分布しています。サヌカイトという石を、「瀬戸内技せとうちぎ法」という決まった順序で打ち欠いて作られた石器です。考古学者は「ナイフ」と名づけていますが、棒の先に着けて、槍として使われたこともあったようです。

◀ ナイフ形石器などの分布(18が十三遺跡)

へい 平遺跡

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

約5000年前～3000年前

丹後町平^{へい}



上空から見た調査地 ▶

丹後に縄文時代の大遺跡

この遺跡は、「丹後松島」とも呼ばれる風光明媚な海浜にあります。夏には海水浴客で賑わうところで、深さ2mまで砂が何層にも堆積しています。これは、およそ5千年前から2千数百年間かかって積もったもので、一番深いところには、縄文時代の前期の終わりから中期のはじめ頃の土器が大量に埋まっていました。この村では、^{ふかぼち}深鉢や^{あさぼち}浅鉢などの土器、斧・やじり・ナイフ・皿・おもりなどの石器を使うだけでなく、美しい石材を用いて体を装飾する玉も作っていたようです。また、晩期中頃の「^{うめがめ}埋甕」とよばれる墓も見つかっています。後世の墓石に相当する石の棒を立てていたようです。



埋甕



▲ 縄文時代中期の土器



▲ 縄文時代晩期の土器

ひがしつちかわ
東土川遺跡

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

長岡京跡左京第385次

紀元前後

京都市伏見区



◀ 意外に小さい
戦士(?)の墓

勇壮なる戦士?の墓

名神高速道路のパーキング予定地は、1200年前には長岡京時代の邸宅が建ち並び、その下層には2000年前の弥生時代中期の村が広がっていました。村には環濠がめぐり、水田や墓地がそばに営まれていたことは、昨年の展示で紹介しましたが、今回「^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓」とよばれる弥生時代の墓のひとつから、おびただしい石剣の切っ先や石のやじりが見つかりました。刺された石剣の切っ先ややじりを体の中に残したまま葬られた戦士の墓と考えられています。しかし、村を襲った何らかの災厄の責任を取らされた首長とする説、あるいは人柱とする説などもあります。皆さんも考えてみて下さい。

府内最古の方形周溝墓

(京田辺市稲葉遺跡、前2世紀)

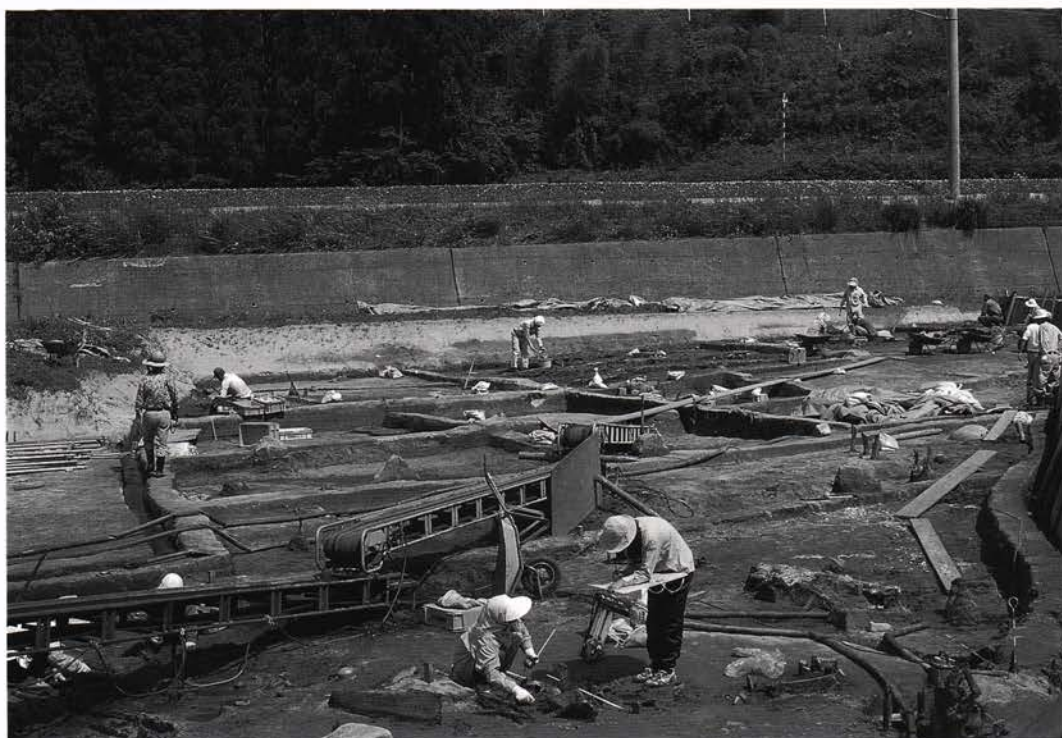
これまで、弥生時代の方形周溝墓そのものが、あまり発見されなかった南山城地域ですが、今回、府内でも最古(弥生時代前期)の方形周溝墓が発見されました(京田辺市教育委員会提供)。



くわはらぐち
桑原口遺跡

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

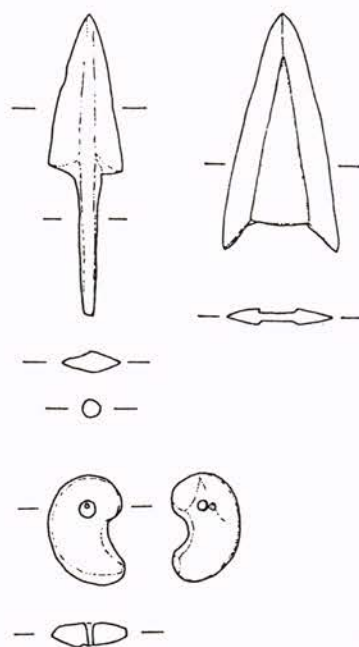
3世紀
宮津市喜多



▲ 竪穴式住居跡など、第2次調査

銅のやじりとガラスの勾玉

宮津の市街地の南、北近畿タンゴ鉄道沿いの遺跡です。1995年(第2次)と1996年(第3次)の2か年にわたって調査しました。弥生時代の最末期から古墳時代初頭の村が、多種多様な遺物とともに見つかりました。京都府ではまだ例の少ない銅のやじり(銅鏃)が4本あり、コバルト・ブルーの古代の色そのままのガラスの勾玉(口絵参照)も出土しました。竹野川の流域では弥生時代の墳墓に時々副葬されていますが、与謝地域では初めてです。土器類も多彩で、いろいろな形が見られます。中には河内・山陰・北陸などから運ばれた土器も含まれており、この時代の広範な地域間の交流を物語っています。



▲ 銅鏃・勾玉実測図(1/1)
(口絵参照)

うちさとほっちょう
内里八丁遺跡

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

3～4世紀
八幡市内里^{うちさと}



邪馬台国時代の土器と木製品

この遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての集落で、周辺には水田や墓地がありました。この村で使われた多くの土器や木製品が、今回見つかりました。多くの土器は3世紀のもので、いわゆる邪馬台国時代にあたります。木製品には、槽・鍬の他、扉などの建築部材があります。その後、飛鳥時代も集落でしたが、小鍛冶も行われていたことがわかりました。そして、平安時代になると、大規模な建物が造られ、一般の集落ではなく、何らかの公的な施設になったようです。平安時代の終わり頃には次第に畑になっていき、鎌倉時代には島畑が点々と造られ、周囲には水田が広がる、現在のような景観になりました。

くもみや
雲宮遺跡

(長岡京市埋蔵文化財センター)
長岡京跡左京第390次

4世紀
長岡京市こうつり神足



◀ 調査地の全景

水辺での祈り

古代の人々は、よく水辺で雨乞いや厄除け、病気治癒といった様々な祈りを込めた神祭りを行ったようですが、遺跡で発見される祭祀の跡で、それぞれが具体的にどのようなことを願っていたのかということについては、はっきりとした区別はできません。

今回、雲宮遺跡で見つかった川の跡から出土した多量の土師器や木製品についても、何かの願いを込めて置かれたものと思われるのですが、用途などについては不明です。

▼ 川跡から出土した土器や木器





巨大な階段状墓壙

(山城町椿井大塚山古墳、4世紀)

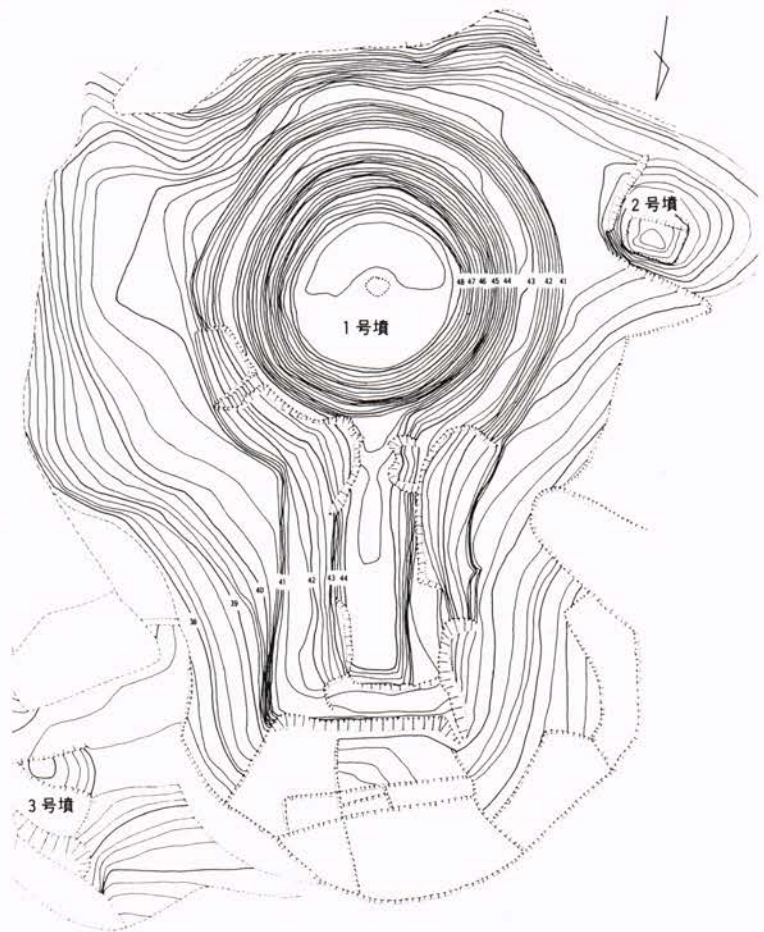
椿井大塚山古墳では、階段状に造成された巨大な墓壙が検出され、石室を埋める最終段階の面には埋葬するときの儀礼に使われた赤色顔料が塗られていました(山城町教育委員会提供)。

古墳を大改造

(加悦町白米山古墳、4世紀)

白米山古墳は、良好な保存状態で残された精美な前期古墳と見られていました。発掘調査で、築造後もなく大きく改造されていることがわかりました。

このほか、一墳丘に三つの石室が造られていることが判明した福知山市の牧正一古墳についてもパネル展示を行います。



白米山古墳地形測量図

とくうんじきた
徳雲寺北古墳群

(園部町教育委員会)

5～6世紀
おやまひがしまち
園部町小山東町空から見た古墳群 ▶
(右が北)

十字星のような配置の古墳群

この古墳群は、徳雲寺谷と呼ばれる谷の南端にあって、北に眺望が開けています。半独立的な丘陵に、6基の古墳が極めて規則的に配置された、特異な古墳群です。中央の1号墳が最初に造られ、その後200年近くの間、西の6号墳、北の2号墳、南の4号墳、東の5号墳、最後に4号墳の南に接して3号墳(このみ横穴式石室)が築かれています。最初の3基が方墳、最後の2基が円墳です。また、3号墳までは埴輪をもち、最も古い2基には葺石も見られます。中期段階の古墳の立派さ、方墳から円墳への変化など、丹波地方の古墳時代の縮図を見るようです。



▲ 家形埴輪の出土状況

おくのしろ
奥ノ城古墳群

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

5～6世紀
京田辺市田辺



▲ 朝顔形埴輪

多彩な形象埴輪

京田辺市役所の道路をはさんだ南の丘陵には、2000年ほど前の弥生時代の集落(田辺遺跡)がありました。調査では、円形のたてあなしきじゅうきょ竪穴式住居跡群が見つっています。その後、古墳時代中期になると、このあたりの有力者の墓が築かれました。これが田辺奥ノ城古墳群です。方墳2基で、埋葬施設は残っていませんでしたが、古墳から周りの溝に転落した大量の埴輪が出土しています。普通の円筒埴輪や朝顔形埴輪のほかに、鶏や甲冑をかたどった形象埴輪もあります。



▲ 鶏形埴輪



▲ 甲冑形埴輪のかぶと



▲ 甲冑形埴輪のよろい

◀ 馬形埴輪

ものまえ 門ノ前古墳

(宇治市教育委員会)

6世紀中頃
宇治市菟道

復原された埴輪

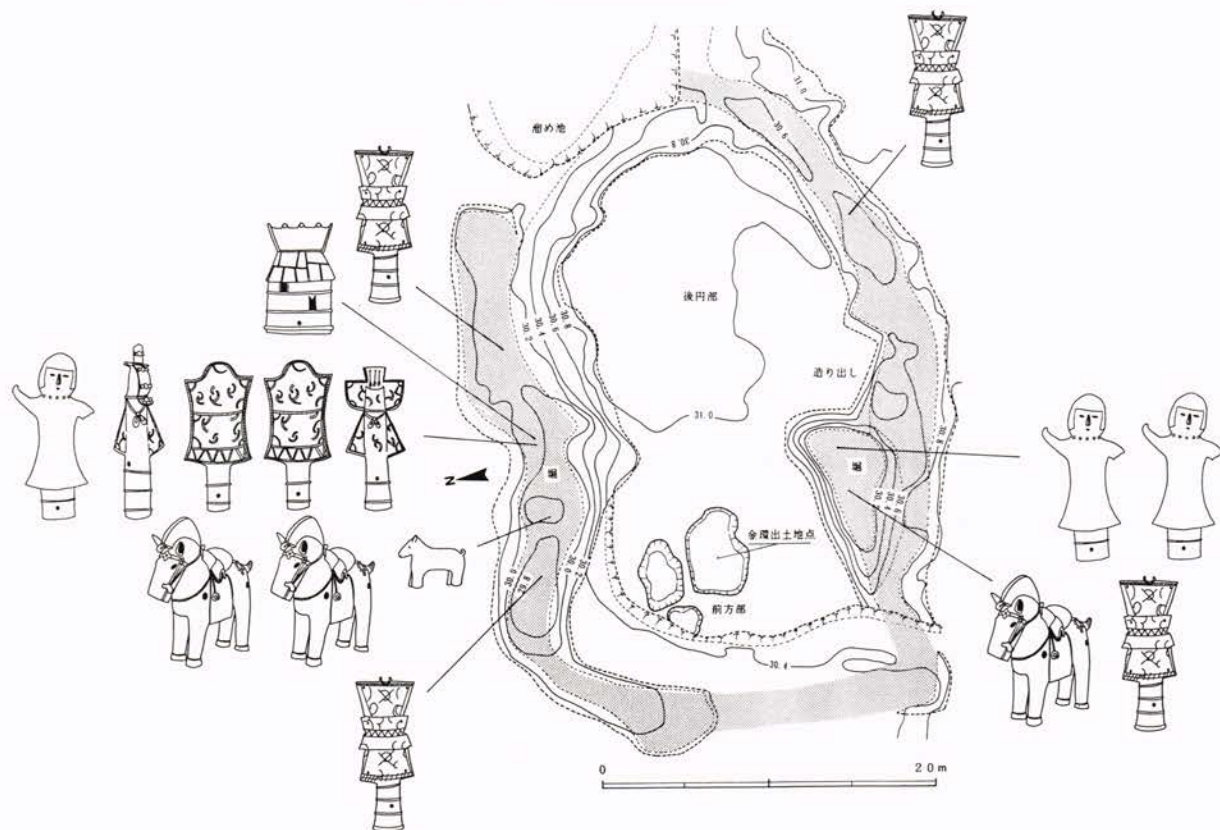
門ノ前古墳は、平成6年度に新たに発見された前方後円墳です。元は、周囲に溝をめぐらした全長35mほどの堂々とした古墳であったものが、墳丘全体が削り取られ、発掘調査でも輪郭が確認されただけです。

古墳の周囲の溝跡からは、多数の埴輪類が出土しましたが、いずれも壊れて細かな破片になっていました。発掘調査終了後の地道な復原・整理作業によって数多くの形象埴輪が、元の姿に復原されました。



▲ 破壊されていた前方後円墳

▼ 形象埴輪の出土状況(模式図)



きたのしょう
北ノ庄古墳群

(亀岡市教育委員会)

6世紀前半
亀岡市千代川町



▲ 「ハ」の字形に開く羨道（14号墳）



▲ 板石により閉ざされた玄室



▲ 正方形に近い玄室（13号墳）

九州型の石室・被葬者は？

丹波国府推定地の北東丘陵部には古墳が密集して築かれています。北ノ庄古墳群もその一つで計25基からなる古墳群です。調査を実施した13・14号墳は、いずれも横穴式石室を埋葬施設とする円墳で、一辺約2mのほぼ正方形に近い玄室入り口部には、板石を用いて閉塞し、また羨道部は「ハ」の字形に開いていました。これらの構造は、北部九州の影響を受けたとみられることから、その被葬者との関係が注目されます。

つぼのたに
壺ノ谷窯跡群 (仏教大学)

6～7世紀
じょうなんまち
園部町城南町



▲ 山裾に築かれた窯体と灰原



府内最古の窯跡群

須恵器は、窯を用いて生産される硬質の焼き物です。その技術は、5世紀ごろ朝鮮半島から大阪府南郊の泉北丘陵一帯(陶邑古窯址群)にもたらされ、全国各地へと伝播していきました。壺ノ谷窯跡を包括する園部古窯跡群は、5世紀末から生産を開始した府内最古の窯跡群で、9世紀頃まで操業されました。壺ノ谷窯跡では、溝が煙道部から窯体を囲むようにめぐる「溝持ち窯」が見つかり、窯体構造の変遷や技術交流を考える上で貴重な資料がえられました。

◀ 天井の高さがわかる窯体

くにぎゅう 恭仁宮跡

(京都府教育委員会)

8世紀

加茂町河原ほか



▲ 恭仁宮大宮垣の西南角

▼ 木簡が出土した溝

宮の規模解明

近年、宮の範囲を確認するための発掘調査を続けていた恭仁宮跡では、昨年、宮の西側を区画する築地塀跡つじべいあとが発見され、これまでに確認されてきた南、東、北辺と合わせて恭仁宮の範囲を確定することができました。それによると、恭仁宮は、南北約750m・東西約560mという、他の宮都では類例のない縮小された長方形に造営されていたことがわかりました。

また、長い恭仁宮跡の調査の中でも初めて木簡が出土し、今後、恭仁宮に関する文字資料の増加が期待されるようになりました。



たんばこくぶんじ
史跡丹波国分寺跡

(亀岡市教育委員会)

8世紀
亀岡市千歳町ちとせちよう



▼ 出土した軒丸瓦と軒平瓦



国分寺僧の生活した僧坊跡

国分寺は、奈良時代に聖武天皇の勅願によって全国に造られた寺院のことで、天平13年から工事が本格化しました。国分寺には、僧寺と尼寺の二つがセットになって律令制の国単位に造られました。史跡丹波国分寺跡は、その僧寺にあたります。場所は、大堰川右岸にあって、現在も浄土宗の寺院としてその名跡を残している数少ない国分寺の一つです。史跡丹波国分寺跡では、過去5年間にわたって発掘調査が実施され、金堂跡、中門跡、中門回廊跡、塔跡、講堂跡などが見つかри、創建当初の寺院の伽藍配置が詳しいところまでわかりようになりました。昨年度は、主として総柱の礎石建物跡が見つかリ、僧侶が日常生活を営んだ僧坊跡であることが推定されています。

ごりょういけひがし
五領池東窯跡群

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

8世紀後半
木津町市坂



▲ 出土した瓦

▼ 1号窯



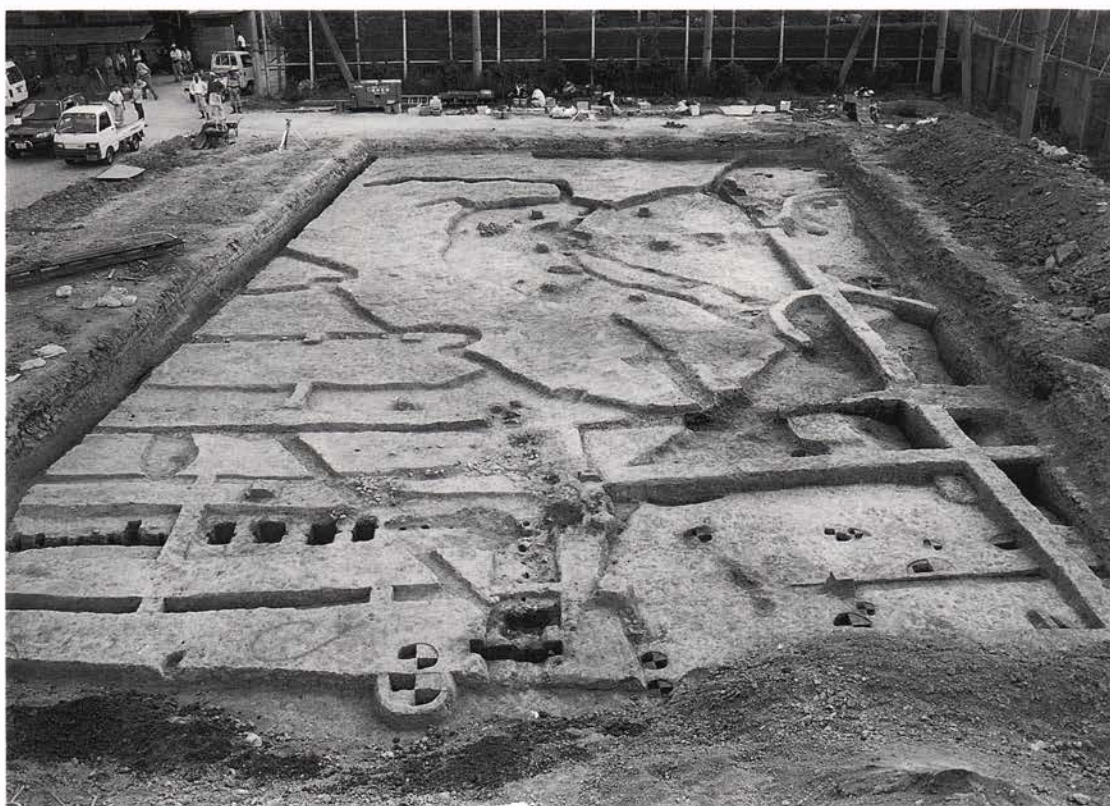
ほっけじあみだじょうどいん
法華寺阿弥陀浄土院の瓦づくり

奈良市北部から京都府の木津町にかけて、奈良時代の瓦工場(瓦窯跡)が点々と存在しています。今まで当センターでは、興福寺の創建の瓦窯跡(梅谷瓦窯跡)、平城京内某所で使われた瓦の窯跡(瀬後谷瓦窯跡)、平城宮大膳職の修理瓦を生産した遺跡(上人ヶ平遺跡と市坂瓦窯跡)などを調査してきましたが、今度は光明皇后ゆかりの法華寺阿弥陀浄土院の瓦を焼いた3基のロストル式平窯を調査しました。ロストルというのは、効率的に瓦を焼くために設けた畝状の火床です。阿弥陀浄土院の造営時期から見て、奈良時代の後半に操業していたようです。市坂瓦窯と隣接する場所で、しかもほぼ同時期に、まったく異なる搬出先の瓦を生産していたわけです。

ながおかきゅう
長岡宮跡

(向日市埋蔵文化財センター)
長岡宮跡第326次

8世紀末
向日市かいで鶏冠井町



▲ 地鎮祭の跡を示す杭跡(左下の連続する掘り穴)

▼ 長岡宮造営時の小規模な建物

宮都造営の地鎮祭

宮都を造営する時に行った地鎮祭については、文献史料からは想像されていましたが、今回、長岡宮跡の調査で初めてその実態が発見されました。

杭列に横木を渡した柴垣で囲まれた敷地の中で、須恵器や緑釉陶器を使った地鎮祭が行われ、その場に鑄造炉や鍛冶炉を築いて建築資材となる釘やかすがいなどを製造していたようすがうかがえます。その後、この施設は埋められ、建物の敷地として造成されました。



しの
篠・マル山1号窯跡

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

9世紀
しの
亀岡市篠町



▲ 長頸壺



都の食器を一手に

篠窯跡群では、奈良時代から平安時代にかけて須恵器や瓦を生産した窯が百基以上築かれています。マル山1号窯は、平安京に都が移った9世紀前半頃に築かれた窯で、燃焼効率を良くするためか、約30度の斜面地に築かれていました。焼かれていた須恵器は杯・蓋・皿・壺など、器種・器形は豊富です。丹波や平安京の人々の食卓を飾るため、老ノ坂峠を越えた丘陵部一帯では、十数基の窯から絶えず煙が昇っていたことが想像されます。

◀ 杯とその蓋

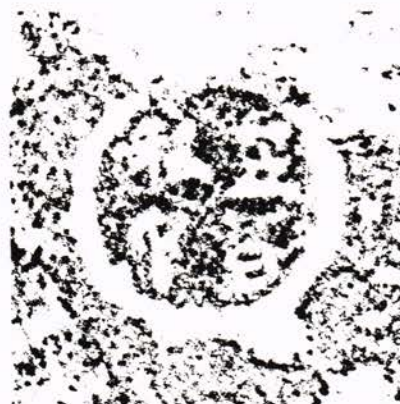
うらにゆう
浦入遺跡

(舞鶴市教育委員会)

9世紀
舞鶴市字千歳ちとせ

製塩土器に印が押されていた。

浦入遺跡は、弥生時代の遺跡として著名ですが、発掘調査が進んで、奈良時代や平安時代でも塩の生産地としてかなり大きな集落であることがわかりました。特に、昨年度の調査では、大量の製塩土器が出土して塩の一大生産地であったことが明らかになりました。この製塩土器の中に、「笠百私印」という印が押されたものが見つかりました。「笠百私印」は、個人の印のことで、「笠臣百〜」という加佐郡に住んだ笠氏の一族の名が想定できます。土器に印を押した例は、斎宮跡などでも見つかっていますが、数が少なく、貴重な発見となりました。



▲ 「笠百私印」の拓影

じょうらく
上楽遺跡

(福知山市教育委員会)

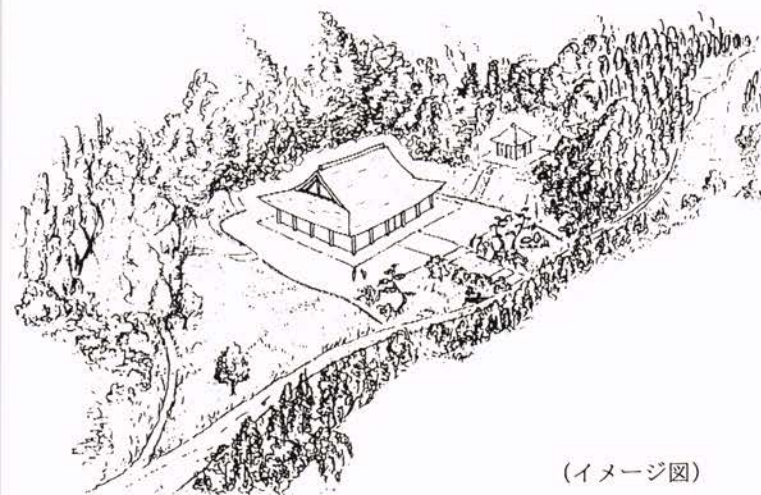
10世紀
福知山市いさき猪崎



▲ 上空から見た上楽遺跡

山の中のお堂のあと

山の斜面の一部分を削って、300㎡ほどの平らな地面を造り、そこにお堂を建てた遺跡です。お堂は、礎石を置かず、穴を掘って柱を立てるほったてぼしらなても掘立柱建物です。柱と柱の間隔は3mで規則正しく設計されています。建物の規模は5間×4間で、内部に3間×1間の一段高くなった内陣があり、そこに仏像が安置されていたとも考えられます。柱と柱の間には、地覆石も残っており、かなりていねいな工事が行われたようです。出土遺物には、灯明器として使われた痕跡(炭化物)のある土器が目立ち、多くの明かりを必要としていた施設であったことがわかります。このお寺については、文献もなく、寺の名前すらわかっていません。



(イメージ図)

▲ 復原想像図

へいあんきょうあとさきょうごじょうさんぼう
平安京跡左京五条三坊

(京都府埋蔵文化財
調査研究センター)

10~11世紀
京都市しもぎょうく下京区



▲ 出土した土器・陶磁器

▼ 千年の都、人々の営みの跡



院政時代の高級陶磁器

調査地は、五条警察署の敷地です。この辺りは、弥生時代の烏丸綾小路遺跡に含まれており、土器片が出土していますが、平安時代から鎌倉・室町・江戸の各時代のようにうかがうことができました。ここでは平安時代後期、院政が始まった頃の遺物を紹介します。井戸やゴミ穴などから、土師器の皿などの日常雑器とともに、当時の高級品である緑釉・灰釉などの陶器、中国製の白磁などがまとめて出土しました。比較的身分の高い人の邸宅であったようですが、文献史料等によっても、当時ここに誰が住んでいたかはわかっていません。



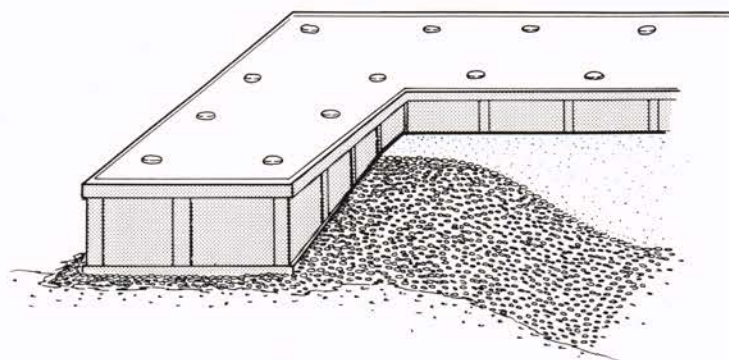
▲ 平安時代の洲浜

蘇る浄土庭園

平安時代の貴族を代表する藤原氏が、極楽浄土をこの世に再現した平等院鳳凰堂とその庭園は、近年の継続的な発掘調査によって、徐々に創建当初の姿が蘇りつつあります。

元来は、中島に浮かぶ「浮き御堂」のような姿ではないかと想像されていた鳳凰堂ですが、調査の結果では中島から一段高く築かれた基壇の上に構築されたものであったことが確認されました。また、鳳凰堂を囲む池についても、水面に高低差を設け、池内の湧き水を利用して水の流れを作るという巧みな作庭であったことがわかってきました。

▼ 洲浜に立つ鳳凰堂の基壇



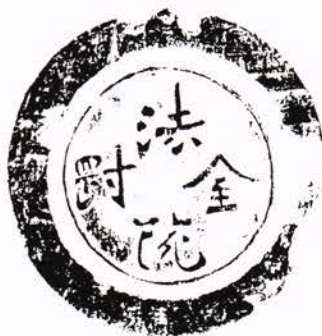
ほうこんごういんきゆうけいだいと 法金剛院旧境内跡

(京都市埋蔵文化財研究所)

12~13世紀
京都市右京区うきょうく



▲ 塔跡の基壇



▶ 法金剛院の瓦

平安貴族の末法思想まっぽう

法金剛院は、大治4(1129)年に鳥羽天皇の中宮であった待賢門院たいけんもんいんによって発願、建立された寺院です。それ以前、平安時代前期には右大臣の清原夏野の山荘が置かれ、また天安寺が造営されています。今回の調査では、塔跡と考えられる版築はんちくの基壇を伴う礎石建物跡や園地跡が確認されました。出土遺物では、平安時代の瓦が大半ですが、鎌倉時代の法金剛院の寺号が入る瓦も出土しました。また、室町時代後半の瓦経の一部も出土しました。経典は、法華経序論『無量義経むりょうぎぎょう』とわかりました。

慈悲十力無畏起	衆生善業因緣出
示爲丈六紫金輝	方髻照曜甚明徹
毫相月旋頂日光	旋髮紺青頂肉髻
淨眼明照上下眇	眉睫紺舒方口頰
唇舌赤好若丹菓	白齒四十猶珂雪
頰廣鼻脣面門開	胸表卍字師子髀
手足柔軟具千福	腋掌合棧內外覆
臂脰肘長指直纖	皮膚細軟毛右旋
蹠膝不現陰馬藏	細筋鎖骨鹿膊腸
表裏映徹淨無垢	淨水莫染不受塵
如是等相三十二	八十種好似可見
而實無相非相色	一切有相眼對絕
無相之相有相身	衆生身相相亦然
能令衆生歡喜禮	虔心表敬感慈
因是自高我慢除	成就如是妙色驅
我等八萬之等衆	俱共稽首咸歸命

【無量義経】



裏

表

▶ 瓦経の拓影



むくのき
椋ノ木遺跡

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

11～14世紀
 精華町^{しもこま}下狛



▲ 出土した中世の土器・陶磁器



▼ 青磁碗を副葬した墓



中世南山城の一大集落

山城町と精華町を結ぶ開橋を渡った木津川の西岸では、以前から中世の土器などが拾われていました。発掘調査をしてみると、やはり平安時代後期から鎌倉時代にかけての大規模な集落があったことが確認されました。建物の柱穴・井戸・溝・ゴミ穴そして墓などから、土器・陶磁器・木器・漆器・金属器等が出土しています。これらの日常雑器は非常に保存

◀ 日常雑器
 が捨てられ
 れた溝

状態がよく、中世の生活の肌ざわりが伝わってくるようです。青白磁の合子(蓋付きの容器)や青磁の碗など、やや高級な器もあります。集落のなかには条里地割に一致して真直ぐに伸びる溝があり、相楽郡条里制が少なくとも平安時代の末まではさかのぼることもわかります。

ひきつち
引土備蓄銭出土地

(舞鶴市教育委員会)

14世紀
舞鶴市字引土

備蓄銭12貫文なり

この発見は、発掘調査ではなく、下水道の工事中になされたものです。古銭は、破片も含めて11,843枚あり、100枚ないし1,000枚単位で紐を通した緡銭さしせんの状態、円筒形の木製曲げ物の容器に入れられていたようです。埋められた時期は、鎌倉時代の末から室町時代のはじめです。当時の銭は1枚1文で、1,000文(実際は970枚ないし960枚)を紐で貫いたものを1貫文かんもんといいます。米1石がおよそ1貫文でした。舞鶴のこの備蓄銭はおよそ12貫文、米価で換算するとおよそ72万円に相当します。発見現場の近くには往時隆盛を誇った円隆寺えんりゅうじがあり、この寺か、地元の豪族でこの寺の寄進者であった田辺氏の関係者が埋めたのではないのでしょうか。

▼ 洛中洛外図(船木家本)に見える近世初期の京都五条通り。両替屋二軒の中に緡銭が描かれている。





▲ 虎口東側の石段と排水溝

▶ 軒丸瓦



▶ 軒平瓦



◀ 土管

最古か、山城に石垣

弥生時代の田辺遺跡(集落)・古墳時代の田辺奥ノ城古墳群(10頁参照)のある丘陵は、室町時代になって山城として再々利用されました。このような複合遺跡はそう珍しいものではありませんが、この田辺城跡の場合は政治的・軍事的、あるいは社会的によほど重要な位置を占めていたようです。とりわけ注目されるのは、虎口(城の入り口、表紙参照)で、急斜面に石垣を築き、坂を石段にして、更に瓦や土管で構築した排水溝を設けています。特に、石垣は、中世から近世にかけての他の例と比べても、極めて入念でていねいに造られていることが指摘されています。信長の安土城築城以前の石垣と瓦の存在は極めて異例で、この山城の前身が寺院であった可能性を示唆する意見も出ています。

だにじょうあと
シミズ谷城跡

(京都府埋蔵文化財調査研究センター)

15・16世紀

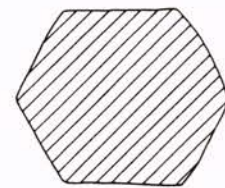
弥栄町堤



▲ 上空から見たシミズ谷城跡

戦国時代の軍需産業？

弥栄町堤にある中世の小規模な山城です。15世紀後半に山城として最初に築造され、16世紀前半に最盛期があり、その後16世紀の末から17世紀にもう一度利用されたようです。15世紀には多くの大きな穴が掘られています。銭貨とともにかぶと兜や刀剣の部品が出土しているところから、武士を葬ったとも考えられますが、よくわかっていません。16世紀の出土遺物では、すりばち搗鉢やちやうす茶臼が目立ち、また、珍しいさおばかり棹秤のおもり錘が出ています。これらの特徴的な出土遺物から、火薬製造が行われていたと見る向きもあります。なお、ここで出土した錘(口絵参照)は、元は鍍金していました。福井市の朝倉氏遺跡、大阪市の大坂城跡、堺市の堺環濠都市遺跡などでも見られ、全国で6例目になります。



▲ 土坑17出土錘実測図
(口絵参照)

展示品リスト

遺跡名	遺物名	点数	年代	保管者
十三遺跡	ナイフ形石器	1	2万年前	京都府埋蔵文化財調査研究センター
平遺跡	縄文土器	17	前3千年紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	石器	一括	～前1千年紀	
	装身具	4		
東土川遺跡	石剣切っ先	一括	紀元前後	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	石鏃	一括		
	弥生土器	5		
桑原口遺跡	銅鏃	4	3世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	ガラス勾玉	1		
	古式土師器	10		
内里八丁遺跡	木器	5	3世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	古式土師器	5		
雲宮遺跡	古式土師器	10	4世紀	長岡京市教育委員会
徳雲寺北古墳群	円筒埴輪	2	5～6世紀	園部町教育委員会
	形象埴輪	2		
	須恵器	16		
	土師器	1		
	玉類	一括		
奥ノ城古墳群	円筒埴輪	1	6世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	朝顔形埴輪	1		
	形象埴輪	4		
門ノ前古墳	鞍形埴輪	1	6世紀	宇治市教育委員会
	大刀形埴輪	1		
	犬形埴輪	1		
	人物埴輪	1		
北ノ庄古墳群	須恵器	6	6世紀	亀岡市教育委員会
	鉄器	6		
	玉類	一括		
壺ノ谷窯跡群	須恵器	16	6～8世紀	仏教大学
	線刻・文様入須恵器	5		
	焼台等	3		
恭仁宮跡	須恵器	4	8世紀	京都府教育委員会
	土師器	4		
	墨書土器	5		
	瓦類	2		
史跡丹波国分寺跡	瓦類	7	8世紀	亀岡市教育委員会
	緑釉椀	3		
	須恵器杯	3		
五領池東窯跡群	軒丸瓦	4	8世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	軒平瓦	4		
	刻印瓦	2		
	文字瓦	2		
長岡宮跡	軒丸瓦	3	8世紀	向日市埋蔵文化財センター
	鬼瓦	1		
	緑釉陶器片	一括		
	土師器・須恵器	一括		
	炉壁片	一括		

遺跡名	遺物名	点数	年代	保管者
篠・マル山窯跡群	須恵器	一括	9世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
浦入遺跡	押印土器	1	8世紀	舞鶴市教育委員会
	製塩土器	一括		
上楽遺跡	土師器椀	4	10世紀	福知山市教育委員会
	黒色土器椀	1		
	土師器鉢	2		
平安京左京五条三坊	土師器皿	5	11世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	瓦質鉢	1		
	須恵器鉢	1		
	白磁碗	3		
	白磁皿	2		
	白磁壺片	1		
平等院庭園	軒丸瓦	2	11～12世紀	平等院・宇治市教育委員会
	軒平瓦	2		
	鬼瓦	1		
	土師皿	6		
法金剛院旧境内跡	瓦経	1	12～13世紀	京都市埋蔵文化財研究所
	瓦類	8		
	白色陶器	2		
椋ノ木遺跡	土師器皿	2	12～14世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	瓦器椀・皿	11		
	羽釜	2		
	青磁碗	1		
	青白磁合子	1		
	陶磁器片	6		
	須恵器鉢	3		
	庖丁	1		
引土備蓄銭出土地	備蓄銭	一括	14世紀	舞鶴市教育委員会
田辺城跡	軒丸瓦	5	16世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	軒平瓦	4		
	鬼板	1		
	排水路瓦	3		
	土管	2		
シミズ谷城跡	錘	1	15～16世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	武具片等	一括		
	銭貨	30		
	石臼	2		
	陶磁器	5		



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

第15回小さな展覧会 発行日/1997年8月16日

編集・発行/財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒617 向日市寺戸町南垣内40-3 Phone 075-933-3877 印刷

主催 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
後援 京都府教育委員会
協賛 向日市文化資料館